

平成31年1月24日
筑波大学

テーラーメイド QOL プログラム開発研究センターを設立

国立大学法人筑波大学（学長：永田恭介、以下「筑波大学」）は、平成31年2月1日付で、「テーラーメイド QOL プログラム開発研究センター」（センター長：磯田博子 筑波大学生命環境系教授）を設立します。同センターは、健康状態の改善と同時に QOL を維持・向上させる画期的なテーラーメイド・プログラムを国内外に発信することを目的としています。

医療費削減は喫緊の課題となっており、国の方針も「治療から予防・改善」といったコンセプトにシフトしています。人生の最後は長期間寝たきりになることが多いという現状から脱却し、QOL (Quality of Life) を向上させることにより健康寿命が延び、尊厳を持って元気に暮らせる社会を実現する必要があります。これにより、医療費の大幅な削減につながるだけでなく、高齢者のイメージを変え、社会における人的資本・知的資本の蓄積・活用を生み出すことが期待されます。

本学は、平成26年度から文部科学省のセンター・オブ・イノベーションプログラム（以下、「COI プログラム」という。）に参画し、QOL の基盤となる食・運動・睡眠の3つの観点から取り組み、3つの商品を上市し、成果を挙げてきています。

しかしながら、食・運動・睡眠を一体化した取り組みを政策に結び付ける産官学連携研究拠点の事例が国内にはありません。そこで、筑波大学の強みを生かした COI プログラムの実績を基盤として、研究者、関連企業だけでなく、地域住民も積極的に参画した社会実装を目指す「テーラーメイド QOL プログラム開発研究センター、英語名：R&D Center for Tailor-Made QOL（以下、「センター」という。）」を設置し、以下3つの目的のもと、画期的なテーラーメイド QOL プログラムを国内外に発信するリーディング拠点を形成します。

1. 新食品による健康の改善

食資源中に含まれる新奇な機能性物質等に着目した新食品の開発により、食の立場から生活習慣病等の疾患の改善を実現し、医療費の削減や QOL の向上に加えて、健康寿命の延伸に貢献します。

2. 健康意識の向上

身体機能及び認知機能の評価及び将来予測尺度の開発、健康状態に合った最適なテーラーメイドトレーニングメニューは、全ての世代（子供・若者・中高年・前期高齢者・後期高齢者）に対して健康意識の向上に資します。

3. 社会実装

食・運動・睡眠効果の協奏による健康増進のしくみを社会に提供します。また、統合データベースを作成し活用することにより、個人の健康度をモニタリングし、疾患予防と健康管理に貢献します。

「開発研究センター」

社会還元型の研究を推進しイノベーション創出を促進するために、外部資金等を事業運営費として、社会的要請の高い学問分野での共同研究開発を積極的に推進し、産学官の共同研究体制を構築する組織。期間は5年で延長もできるが、外部資金での運営が不可能になった時点で廃止となる。筑波大学のミッションである教育、研究、社会貢献のうち、社会貢献のミッションを担う新たな組織として平成27年7月1日付けで創設された。名称は「開発研究センター」とし、筑波大学国際産学連携本部のもとに開設される。

■問い合わせ先

国立大学法人筑波大学

生命環境系 教授 礒田 博子

TEL 029-853-3981